

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 都の補助事業を活用した飼い主のいない猫の保護活動等への支援対象に犬も加えるべきだ

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

本市においては、東京都の保健医療政策区市町村包括補助事業を活用し、令和6年6月1日から令和9年3月31日までの補助事業期間を設定しこれまで年1000万円の予算措置を行い飼い主のいない猫の保護・飼養・譲渡・医療に係る活動費に対して要件を満たした団体に補助を行っています。現在、本市においても、犬の多頭飼育による適正飼養の崩壊、また単身高齢者等による適正飼養が出来ない状態も数多く発生していることは、小平市地域包括支援センター小川ホーム等からも声があがっているところです。多頭飼育崩壊による犬の保護、譲渡活動には、費用と手間もかかり、長期間に及ぶことから、今後担って頂ける団体に対して「小平市飼い主のいない猫の保護及び譲渡に係る活動費補助事業」の適用対象動物に犬も追加すべきと考え以下質問致します。

- 1 東京都の保健医療政策区市町村包括補助事業を活用して実施している「小平市飼い主のいない猫の保護及び譲渡に係る活動費補助事業」を見直し、犬も対象動物として適用範囲を拡大し、今後、保護、譲渡等を担って頂ける団体の経済的負担の軽減や活動環境の改善に向けた準備を市として進めていくべきと考えるが市の見解を伺う。
- 2 市内における、犬等の動物の多頭飼育による適正飼養崩壊の問題、また単身高齢者等で飼養が突然困難となるケース等が数多く発生している状況、また東京都の動物愛護相談センターが都内に3ヶ所しかなく様々な個別事案に迅速に対応出来ないケースや本市の令和7年3月末現在の犬の登録頭数が8750頭と年々増えている傾向も鑑み、市の環境部環境政策課に動物担当の専任担当係長を早期に配置し、諸課題に機動的に対応出来る体制を構築すべきと考えるが市の見解を伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和7年5月21日 小平市議会議長殿 小平市議会議員 氏名 佐藤 徹

受付番号【 8 】

27	26	25	24	23
10	10	10	9	9

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 全市立中学校の校外部活動時の移動手段に自転車利用を早期に認めよ

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

南西部地域にお住まいの、中学校の生徒の保護者の方からの強い要望を受け、また夏の暑さ等による保護者や生徒本人の身体的負担軽減の視点からも全市立中学校の校外部活動時の移動手段に自転車の利用が一日も早く認められ実現することを目指し、以下質問致します。

1 令和6年11月に市教育委員会として、部活動地域連携・地域移行の方向性をまとめ発表しました。部活動地域連携・地域移行の方向性の中の、今後引き続き検討すべき論点の中には、生徒の移動手段の項目もあり、具体的には、合同部活動や地域クラブ活動等の参加時の生徒の活動場所までの移動手段について検討する。と明記されていますが、今後どのようなスケジュールで検討し、いつ結論を導き出すのか、教育委員会の見解を伺う。

2 現在、近隣の国分寺市や東大和市等では、市立の全中学校において、校外の部活動時の移動手段として自転車の利用を認めています。本市においても、国分寺市等の運用方法を参考に部活動地域連携・地域移行の検討委員会とは別枠で、中学校校長会等で協議を行い一定のルールを作り、保護者や交通管理者等の意見も伺いながら、最終的には教育委員会として承認を行う、という手順で、校外部活動時の移動手段に自転車利用を早期に認めるべきだと考えるが教育委員会の見解を改めて伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7年5月21日 小平市議会議長殿 小平市議会議員 氏名 佐藤 徹

受付番号【 8 1

27	26	25	24	23
10	10	10	9	9

-(2/3)

再質問の方式
1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 公園出入口のバリアフリー化の促進と天然芝のある人と環境に優しい公園整備を目指して

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2006年12月20日「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」の施行を受け、公園・緑地においても法的な拘束力に基づくバリアフリー化が実施されて来ました。一方、法整備前に作られた公園についても、高齢者や障がい者が安全で快適に移動できるよう、公園の出入口等、優先順位をつけてバリアフリー化の改修工事を順次進めていくと同時に、小規模公園に人と環境に優しい天然芝のある公園整備が進む事を期待し、以下質問致します。

1 中島町にある中島町第2公園は、公園の出入口には、段差が約10センチメートルあり、車椅子等での利用が困難な状態となっています。一方、市内の市道等の歩道にはユニバーサルデザインブロックが設置されておりバリアフリー化の対応が進んでいます。令和6年度にバリアフリー化の環境整備が実施された小川町1丁目にある東小川橋公園等の事例や、ユニバーサルデザインブロックを活用して、段差のある公園の出入口のバリアフリー化の改修工事を国や東京都のバリアフリー推進に関する補助金等を活用して計画的に進めて行くべきと考えるが市の見解を伺う。

2 上水新町1丁目にある小川橋公園また小川西町2丁目にある小川西第1公園は、天然芝のある小規模公園となっています。市内の小規模公園で、天然芝の生育に適した日あたりや水はけ等、一定の生育環境条件の整っていると考えられる、例えば南西部地域の五中通り西公園や酒蔵児童公園等を候補に、本年度より南西部地域の公園の指定管理者となった、こだいらパークコネクトグループとも連携し、環境や人に優しい天然芝公園として、国や東京都の緑化推進に関する補助金等も活用して、出来るところから順次整備を進めていくべきと考えるが市の見解を伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和7年5月21日 小平市議会議長殿 小平市議会議員 氏名 佐藤 徹

受付番号【 8 1

27	26	25	24	23
10	10	10	9	9

小平市議会定例会
 一般質問通告書
 一問一答方式

質問件名
 小平の未来を担うこども・若者たちのために

質問要旨
 （質問する趣旨・内容を具体的に、1 問 1 ページに納めて記入してください）

公明党は令和 4 年 1 1 月に少子化・人口減少を克服するための具体策を示した「子育て応援トータルプラン」を発表。政府が新設したこども家庭庁の政策には、このプランを反映した事業が多く含まれています。小平市においても子育て世帯をはじめ、人口微増が続き、子育て政策は重要課題だと考えます。こどもや若者たちにとって魅力あるまちづくりも喫緊の課題と捉えるべきです。

これまでも訴えて来た、働きながら子育てに奮闘する保護者の不安に寄り添った支援をするために、幼児期だけでなく、成長するこどもや若者たちの支援、特に居場所の拡充は絶対に必要と考えます。

また、こどもや若者たちの声、意見を反映した事業の展開も魅力あるまちづくりにつながると考え以下、質問させていただきます。

- 1、
 いわゆる朝の小 1 の壁を解消すべく小学生の朝の居場所についての検討状況について伺います。
- 2、
 児童・生徒の放課後の居場所としての学童クラブが面積要件を超えている、放課後等デイサービスが足りないとの声を伺います。今後の計画等について伺います。
- 3、
 以前から要望している小学校建て替え時に児童館の併設を今一度、検討すべきと考えますが改めて見解を伺います。
- 4、
 児童館や公民館でこどもや若者たちの声を反映した事業があれば、その評価、課題について伺います。
- 5、
 先進自治体が実施している行政がこどもや若者から要望や意見を聴き、予算を付けて取り組むこども議会や若者議会、少年議会を小平市でも実施すべきと考えますが見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 2 0 日
 小平市議会議長殿
 小平市議会議員
 氏名
 幸田 昌之

受付番号【 4 】—（ 1 / 2 ）

27	26	25	24	23
//	//	//	/0	/0

小平市議会定例会
 一般質問通告書
 一問一答方式

質問件名
 変化する小川東町の課題について

質問要旨
 （質問する趣旨・内容を具体的に、1 問 1 ページに納めて記入してください）

小川東町地域は今後、小川住宅の建て替えや大型集合住宅の建設、隣接の小川駅西口再開発などにより町が大きく変化します。多くの方に小平市を選んでいただき転入していただくことは喜ばしい事ですが、それに伴う不安のお声もいただきます。特に子育て世帯増加への対応は今の内から計画を立てて対策を講じるべきと考えます。
 また、公共施設マネジメントの観点から地域の方々が多く利用している小平元気村おがわ東の更新をしないという判断が先行し、大きな不安が広がっているため、今後の対応が重要と考え、老朽化する施設の対策も含めて以下、質問させていただきます。

- 1、
 開発により子育て世帯の増加が想定される小川東町地域の対応について保育園、学童クラブ、小・中学校について見解を伺います。
- 2、
 小平元気村おがわ東については公共施設マネジメントの観点から更新等の適否の判断により更新等を行わず、15 年間程度は施設を維持していくとしましたが地域、利用者の不安を解消する必要があると考えますが見解を伺います。
- 3、
 小平元気村おがわ東の屋内広場に冷暖房設備の設置をすべきと考えますが見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 20 日
 小平市議会議長殿
 小平市議会議員 氏名
 幸田 昌之
 受付番号【 4 】－（ 2 / 2 ）

27	26	25	24	23
//	//	//	/0	/0

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 蛍光灯 2027 年問題と一橋学園駅周辺の地域課題を含めた安全安心なまちづくり

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

1. 2023 年 11 月に開催された水銀に関する水俣条約第 5 回締約国会議において、一般照明用蛍光灯の製造・輸出入を 2027 年末までに段階的に廃止することが決定された。これを受け、経済産業省からは LED 照明への計画的な更新が要請されている。以下、市の対応を伺う。
 - ① 2027 年末で蛍光灯等の製造が禁止されることから、公共施設における LED 化が急務と考える。市として早期に LED 化に着手すべきだが、市の見解を伺う。
 - ② 上記の決定を受けて、公共施設における蛍光灯から LED 照明への切替スケジュールはどのように考えているのか、市の方針を伺う。
 - ③ 小平市第三次環境基本計画において、2030 年までに公共施設の LED 照明導入率の目標値は 80% である。現在、公共施設における LED 化の進捗状況はどのようになっているのか。また、公共施設の LED 化完了までのロードマップ及び、課題について伺う。
 - ④ 2027 年末に蛍光灯等の製造が終了することについて、市民や事業者に対する周知はどのように行っているのかを伺う。
 - ⑤ 市民や事業者が LED 照明へ円滑に移行できるよう、買換えに対する市独自の補助制度の創設が必要と考えるが、市の見解を伺う。
2. 安全安心なまちづくりを推進するため、一橋学園駅周辺の地域課題も含め以下、伺う。
 - ① 今年度から市が、防犯機器等購入費補助金の実施することを評価する。さらに東京都の、令和 7 年度東京都防犯機器等購入緊急補助事業を活用し、市が上乗せして補助上限額を 3 万円まで引き上げて実施するべきだが、市の見解を伺う。
 - ② 学園駅前公園に設置されている公衆喫煙所のスペースが狭い、煙が漏れるため改善要望がある。移設を含めて、密閉型の公衆喫煙所へ改修するべきだが、市の見解を伺う。
 - ③ 令和 6 年 9 月定例会で、学園駅前公園のトイレについて、「利用者が気持ちよく使えるよう、適切な清掃と修繕に努めてまいります。」との答弁があった。その後の修繕に向けた検討状況と、また、トイレがピカピカになるのかも、併せて伺う。
 - ④ 令和 7 年 5 月 14 日、西武鉄道株式会社より、鉄道駅バリアフリーに関する整備計画【都内駅】が公表された。その中で、花小金井駅は、事業期間を令和 7 年度から令和 9 年度とし、1・2 番ホームにおけるホームドア整備が加速事業として位置づけられた。ホームドアの整備は、駅の安全性やバリアフリーの観点からも極めて重要であり、他の駅においても早期の整備が望まれる。市としても、西武鉄道株式会社に対し、小平駅および、以前から要望がある一橋学園駅へのホームドア整備を加速するよう、積極的に働きかけるべきだが、市の見解を伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 21 日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 中江 美和

受付番号【 7 】

27	26	25	24	23
12	12	12	11	11

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式	
1	一括質問一括答弁方式
②	一問一答方式

質問件名
 市内幼稚園と市内保育園の給食費無償化をすべき

質問要旨
 （初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください）

市長の公約である、子育て・教育で選ばれるまちづくりの実現に向けては、子育て世帯への経済的支援が不可欠である。特に、物価高騰などにより家計への負担が増している中、給食費の無償化は効果的な子育て支援策と考え、以下、質問する。

- 3 歳児から 5 歳児を対象とした、幼稚園給食費および保育園副食費を無償化した場合の年間の概算額はいくらか。
- 3 歳児から 5 歳児の幼稚園給食費および保育園副食費の無償化を実施すべきだが、市の見解を伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 21 日
 小平市議会議長
 殿

小平市議会議員
 氏名
 中江 美和

受付番号
 7

27	26	25	24	23
12	12	12	11	11

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 隠れ待機児童問題やきょうだい別々入園など市の保育施策について問う

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)、

2025年度の小平市の待機児童はゼロとの発表がされました。しかし入園申込をしたものの入園することができなかったいわゆる「隠れ待機児童」の数については2023年度が240人、2024年度が239人、そして2025年度は172人と依然として高い水準が続いています。またきょうだいと同じ園に入れない問題についての解消もされてはいません。

児童福祉法第二十四条第一項に基づく市町村の保育実施責任の観点から、「隠れ待機児童」の解消と、政府の方針により来年度からの実施が予定されている待機児童対策とは逆行すると考える「こども誰でも通園制度」について、以下質問いたします。

1. 認可保育園に入園申込をしたが入園に至っていない児童、いわゆる「隠れ待機児童」が2025年度に172人いることについて、市として認可保育園を増設するなど改善するための対策を早急に講じるべきと考えますが、見解は。
2. 「隠れ待機児童」を解消する対策をこのまま何も講じない場合、小平市で「隠れ待機児童」ゼロが実現するのは何年ごろになると推計しているのか、地域別人口推計に照らし合わせてお示ください。
3. きょうだいと同じ園への入園を希望していたが叶わず、認可外保育施設も含め別々の保育所に入園せざるを得なかった例が2025年度の最新の数字では何件あったか、またその要因分析と改善に向けた取組について伺います。
4. 政府が2026年度に本格実施を予定している「こども誰でも通園制度」について
 - (1) 0歳から5歳までの認可保育園への入園申込児童数が1243人に対し、実際に入園できた児童数は985人の小平市で、実際に生後6カ月から2歳以下の未就園児を預かることのできる市内の保育施設はいくつあり、1日当たりの受け入れについてはどのくらいの人数を想定されているのか、について伺います。
 - (2) 保育現場からは、①乳幼児を事前の面談なしに直前での受け入れも可能であり、独立した専用室がなく在園児と合同での形態も認められていることから日常的な保育の質の担保が難しくなること、②アレルギー対応への不安、③慣れない環境に置かれるこどものストレスなど、さまざまな懸念が指摘されていますが、このような課題についての市の認識を伺います。
 - (3) 本制度は利用者(保護者)と事業者との「直接契約」となっており、市町村の保育に対する責任が後退することが懸念されていますが、仮に事故やトラブルが発生した場合の責任の所在はどのようになるのか、市の認識をお伺いいたします。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2025 年 5 月 23 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名

鈴木だいち

受付番号【 15 】

27	26	25	24	23
13	13	13	12	12

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 鷹の台駅の無人化から子どもや高齢者、障害のある方の安全を守るために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

鷹の台駅は1日2万人以上の乗降があり、通勤者に加え、周辺に学校等の施設が多いことから多くの児童・生徒、学生のみなさんが利用する駅となっています。しかし本年3月25日より、鷹の台駅では駅員による窓口対応をせずインターホンで案内する「無人化」を開始しました。公共性の高い駅の「無人化」により困るのは、障害者や高齢者など介助や支援が必要な方たちであり、「無人化」の見直しを求める声が寄せられています。

またすでに「無人化」が行われた駅では、切符をなくした高齢者が駅から一人で出られなくなってしまった例などが報告されており、人身事故が発生した際の対応や落下物や急病人対応、乗客同士のトラブル対応など駅員がいないことによる不安要素は多くあります。

近隣住民や商店のみなさんからは「鷹の台駅は子どもたちが多く利用しているが安全性は守られるのか」「夜間など駅前の治安がわるくならないか」「無人化の見直しを西武鉄道に求めている」といった切実な声が上がっています。鷹の台駅の無人化について、市民の暮らしの安全を守るために西武鉄道株式会社と市として協議を行い、必要な安全対策を講じることを求め、以下質問いたします。

1. 鷹の台駅の1日の平均乗降人員の最新のデータについてお示ください。
2. 3月25日より実施された鷹の台駅の無人化について西武鉄道株式会社から市に対し事前及び事後の通知はあったのか、について伺います。
3. 障害のある方や車椅子を使用している高齢の方など、鷹の台駅に駅員がいないことにより不便で困る方がいることについて、市の認識は。また市内の「手をつなぐ親の会」などの障害者団体からも無人化になったことについて切実な声が上がっていますが、市としての受けとめと、そのような切実な声を西武鉄道株式会社に伝え、対策を求めていく考えはあるのか、市の見解を伺います。
4. 鷹の台駅は児童・生徒が多く利用する駅であることを鑑み、市として西武鉄道株式会社と安全対策等についての協議を行い、通勤・通学など利用の多い時間帯における駅員の配置、またホームドアの設置等、要請を行うべきと考えますが、市の見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2025 年 5 月 23 日 小平市議会議員 鈴木だいち

受付番号【 15 】

27	26	25	24	23
13	13	13	12	12

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式
1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名
 PFOS 等の地下水水質調査の結果を受けての今後の市の対応について

質問要旨
 （初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください）

2024年度に小平市が実施した「市内井戸における PFOS 等の地下水水質調査」の結果が市のホームページで公表されました。今回実施された水質調査は、市民から61件の申し込みがあり、市内を4ブロック（北西部、北中部、北東部、南部）に分け、各ブロック8か所から9か所の調査がされました。結果は34か所中、16か所で国の暫定指針値である1リットル当たり50ナノグラムを上回り、一番数値が高かった調査箇所では230ng/ℓと高濃度の PFOS 及び PFOA が検出されており、住民のみなさんからは驚きと不安の声が寄せられています。

小平市ではこれまでも、2020年には東京都福祉保健局が行った飲用井戸の調査において市内3か所の井戸で暫定指針 値を超え、最大で200ng/ℓという高濃度の値が検出、また同年7月には小川給水所にて280ng/ℓと高濃度の値が検出されてきた経過があります。市民の命と健康を守るためにも今回行われたPFOS等の地下水水質調査についての市独自の分析を行い引き続きの対策を講じていくこと、小川給水所の取水状況について、また不安な住民には血液検査の補助を実施することを求め、以下質問いたします。

1. 今回の市内井戸における地下水調査の結果については、市内の地下水が PFOS 等により高濃度で汚染されている地域があることが明らかとなりました。市内井戸における PFOS 等の地下水調査を実施したことの意義について市としてどのように認識しているのか、について伺います。また市民の命と健康を守る上で重大な問題であると考えますが、今回の結果を受けてどのような対策を講じる必要があると考えているのか、見解を伺います。
2. 市内井戸における PFOS 等の地下水調査では、34か所中、16か所で暫定指針 値を超えていることがわかりましたが、16か所について特徴的な傾向をどのように捉え分析しているのか、また汚染源の特定に向けて東京都水道局と情報共有していくことが大切であると考えますが、市の見解を伺います。
3. 市内井戸における PFOS 等の地下水調査の募集の際、市民からは61か所の申し込みがあったと聞いていますが、そのうちまだ調査が実施されていない残りの27か所についての今後の方針について伺います。
4. 5 月22日に小川給水所の2か所の井戸で工事後に濃度が高いとして取水を再開できなかったとの報道がされたが、東京都からの情報提供はされたか、また現在の小川給水所の取水状況について伺います。
5. 今回の PFOS 等の地下水調査において、暫定指針 値を上回っていた井戸の所有者の方で希望する方については市の補助で経年的な血液検査を実施し、データとして蓄積すべきと考えますが、見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2025 年 5 月 23 日
 小平市議会議員 氏名
 鈴木だいち

受付番号【 15 1

- (3 / 3)

27	26	25	24	23
13	13	13	12	12

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名 市長の所信表明と7つの政策と再開発の進捗を問う

質問要旨 市長は2期目の所信表明で、まず物価高対策を進めると述べました。5月12日(月)日本共産党小平市議団は、市長あてに物価高騰対策等に関する申入れを行い、市民生活緊急支援策について(1)①お米券を全世帯に配布すること、②電気・ガス・ガソリン代の補助を実施すること(対象は高齢者・子育て・障害者世帯、自営業者)、③低所得者への家賃補助を実施すること(対象は高齢者・ひとり親世帯、学生・若者)、④国民健康保険税を1世帯あたり年1万円減税すること、(2)介護・障害者・高齢者施設等に対して、光熱水費及び食材費、燃料代等、物価高騰への財政的支援の継続と拡充を行うことを求めました。

また、市長の所信表明では、公共施設マネジメントに取組み、引続き市民への情報提供をわかりやすく行うことが述べられました。しかし、中央エリアの整備では事業費規模が当初約44億円であったものが約120億円にも膨れ上がっています。市民の暮らしを支援する施策に影響が及んでしまうのではないかと懸念をします。

さらに、DXでひらく未来(政策2)として、DXは加速度をつけて取組む課題としており、教育にもDXの推進を掲げています。そこで市長の所信表明と7つの政策と再開発の進捗について以下質問いたします。

1. 市長が所信表明で述べた物価高対策とは具体的にどのような取組みを行うか伺います。また日本共産党小平市議団が物価高騰対策として市民生活緊急支援策を申入れました。具体的な提案をしたものであり、実施すべきと考えるが見解を伺います。
2. 物価高騰対策に効果のある消費税減税については、市として国に減税を求めるべきと考えるがいかがか。
3. 防災・防犯で安全安心なまちづくりについて、防災対策として自助の備えを講じる市民の割合を高めることは、公助の責務の後退につながると考える。避難所における「スフィア基準」を基にした避難所スペースの確保と災害時のトイレ整備と防災備蓄品の抜本拡充が必要であると考えが見解を伺います。
4. DXでひらく未来について、国の強力な誘導でDXの推進とマイナンバーカードの利用拡大が行われているが、市として情報弱者に対する丁寧な支援が必要であると考えが見解を伺います。
5. 子育て・教育で選ばれるまちづくりについて、教育分野における生成AIの活用やDXの推進をすすめることあるが、GIGAスクール構想により子どもや教職員をとりまく環境が一変をしました。GIGAスクール構想の検証を行う考えはあるか見解を伺います。また抜本的には教職員の多忙化解消に向けた具体的な取組みを行うべきと考えるが見解を伺います。
6. 小平市の魅力をともに創るまちづくりについて、公契約条例の制定を目指すとしています。市としてこれまでの検討状況及び、市長の考える公契約条例の姿をお示しください。また、条例制定の目標年次を示すべきだが見解を伺います。
7. 小川駅西口再開発と小平駅北口再開発について今後、市はどのように関わっていくのかについて伺います。また小川駅駅舎建替え計画の情報と、小平駅北口再開発の進捗についてどのように伺っているか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和7(2025)年5月26日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 細谷 正

受付番号【 21 】 - (1 / 3)

27	26	25	24	23
14	14	14	13	13

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式
① 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名
 立川市立小学校への不審者の侵入等を受け、学校の施設複合化は見直しを

質問要旨
 5月8日(木)に発生した立川市立小学校への不審者の侵入について、報道関係者向けに立川市立第三小学校の不審者対応について、という文書(5月12日立川市教育委員会定例会資料より)が発出されました。そこには、「本日 10 時 55 分ごろ、立川市立第三小学校において、当該校の保護者と思しき人物が連れてきたであろう男性 2 名が、当該校 2 年 1 組教室に侵入してきたようです。児童にけがはありません。暴れていた男性に対応した校長と教職員 4 名がけがをしています。」とあります。

本市では、小学校への不審者の侵入等の報道を受け、こどもと教職員の安全対策が必要であると考えます。また、小平市では第十一小学校と第十三小学校に施設複合化の計画が策定されましたが、不審者の侵入等の報道を受け、学校に不特定多数の人物が入れるようになるため、複合化は見直すべきと考えます。本市の学校を取り巻く防犯対策、安全対策について以下質問いたします。

- 立川市の小学校で起きた不審者の侵入等の報道を受けて、本市に保護者等から問合せは来ているか。また、問合せの内容はどのようなものがあるか。
- 過去に市立小・中学校における学校内への不審者の侵入等により、いわゆる犯罪に当たるような行為の発生があったか、発生していた場合の概要と対応等はどうであったか。
- 市立小・中学校における学校内、学校周辺、通学路上での防犯対策、安全対策として実施していることは何か。
- 市立小・中学校における不審者の侵入等の発生を想定した訓練を実施した実績はあるか。また今後実施する必要があると考えるが見解を伺います。
- 本市では第十一小学校と第十三小学校で施設複合化の計画が策定されましたが、複合化により、不特定多数の人物が学校に入れるようになることから、こどもと教職員の学校生活の安全を確保するために、学校の施設複合化は見直すべきと考えるが見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和7(2025)年5月26日
 小平市議会議長
 殿
 小平市議会議員
 氏名
 細谷 正

受付番号【 2 | 】 - (2 / 3)

27	26	25	24	23
14	14	14	13	13

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

① 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 小川駅西口複合施設については市民の意見を聞き反映させるべき

質問要旨 私は 2025 年 3 月定例会一般質問において、小川駅西口の再開発と新複合施設で変わる諸課題について質問し、小川駅西口複合施設条例施行規則を定めるに当たり、小川西町公民館利用団体など広く市民に意見を聞くべきと見解を伺ったところ、答弁として、これまでも各施設利用者との意見交換の場等を設けてきた。これからも意見を聞いていく。というものでした。その後、市は4月にホームページで小平市小川駅西口複合施設指定管理者募集要項、小平市小川駅西口複合施設指定管理業務仕様書(案)を公開しました。

この間、私の3月定例会一般質問以降、市民の意見を聞いてきたことはあるのか、議会には、「小平市小川駅西口複合施設指定管理者募集要項」に関して説明があったのでしょうか。市民の方々、公共施設利用者の皆さんから様々な問合せをいただいています。そこで、市は小川駅西口複合施設について市民の意見を聞き反映させるべきと考え、以下質問いたします。

- 3月定例会の私の一般質問に対する答弁は、これまでも各施設利用者との意見交換の場等を設けてきた。これからも意見を聞いていく。というものでした。現在まで施設利用者・利用者団体から意見を聞いたことはあるか。また、今後施設利用者・利用団体に意見を聞くことはあるか伺う。
- 小平市小川駅西口複合施設指定管理者募集要項と小平市小川駅西口複合施設指定管理業務仕様書(案)が公開されたことについて
 - 市民や議会に公開と合わせて説明をするべきと考えるが見解を伺います。
 - 募集説明会を5月8日(木)に行ったようだが、参加した団体数はいくつか。
 - 募集説明会終了後に質疑受付と回答を行うとしているが、何件の質問があり、どのような内容だったか。
 - 指定管理料の上限額を年間2億1千万円(消費税込み)としているが、本施設の管理運営の経費を直営で行う場合の試算はいくらか、また比較は行ったか伺う。
 - 指定管理者の指定の議案について現在想定している提出時期はいつ頃としているか。
- 小川駅西口複合施設の施設使用料については、減免を維持すべきと考えますが、検討の凍結が解除された今、改めて見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和7(2025)年5月26日 小平市議会議員 殿 小平市議会議員 氏名 細谷 正

受付番号【 21 】 - (3 / 3)

27	26	25	24	23
14	14	14	13	13

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- ① 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 地域公共交通の拡充を求める

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

地域公共交通について、市民の皆さんから、「市の南東部地域が陸の孤島になっている。コミュニティバス、コミュニティタクシーが走っていないので、交通の便が悪い」「これから高齢者となっていくが、気軽に買い物や病院に行くのも大変だ」という声が多数寄せられています。買い物や通院などの際、高齢者、障害者の方等外出支援を必要とされる方たちにとって、行政の支援が重要であると考えます。また、地域公共交通の危機打開へ急がれる課題の1つに、バスの運転手不足問題があります。市として、運転手の養成や、確保対策に対する財政支援も必要であると考えます。公共交通網は、住民の暮らしと移動権を保障するインフラです。今後、市として、小平市全体の地域公共交通に対し、どのような施策を行っていくのか、また交通網が不便な地域にどのような支援を行っていくのかについて、以下質問します。

1. 小平市内のコミュニティバス、コミュニティタクシーの2024年度の利用状況について伺います。
2. 交通不便地域への対応と、地域の特性や実情を把握するにあたり実施している方策について、伺います。
3. バスの運転手不足が深刻な状況で課題となっていますが、今後市としての支援策について伺います。
4. 経営努力や、運賃収入だけでは、持続可能な地域公共交通は実現できません。

地域公共交通を公共のサービスと位置づけ財政支援を東京都や国に求めてほしいと考えますが見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 7(2025)年 5 月 23 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 三輪博美

受付番号【 16 】

27	26	25	24	23
15	15	15	14	14

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 介護問題等を取り巻く環境の改善、介護従事者を支える施策を求める

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2024年4月から、訪問介護基本報酬が引き下げられ、1年が経過しました。さらに、介護の危機が深刻化しています。市内の介護現場の実態を市が把握し、適切な政策を実現する責務がある事を指摘し、3つの角度から質問します。

1. 市内介護事業所の状況について

①各事業所等の実態把握調査アンケート等は実施されたのか、進捗状況について伺います。

②2024年度の訪問介護事業所の廃業・倒産・閉鎖された件数について伺います。

2. 介護現場の処遇改善について

①介護職員初任者研修についての実績と効果について伺います。

②介護職員の人手不足解消、人材確保に向けて、今年度市としてどのような対策を講じているのか伺います。

3. 介護事業等利用者からの要望等について

①ねたきり高齢者おむつ支給等事業ですが、紙おむつの2024年度の申請件数について伺います。

②寝たきりではなくても、常時紙おむつを必要とされている方もいらっしゃると思います。誰もが利用しやすいように、支給要件の緩和を行うべきだと考えますが、見解を伺います。

③福祉有償運送事業ですが、2024年度の 利用件数について伺います。

④福祉タクシー 利用料金補助ですが、利用されている方からは「物価高騰で生活が苦しい。利用回数券の枚数を増やしてほしい」という要望もあります。市の見解を伺います。

4. 市として、国や東京都に対し、介護職員処遇改善の要望を行っていただきたいと考えますが、市の見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 7(2025)年 5 月 23 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 三輪博美

受付番号【 16 】

27	26	25	24	23
15	15	15	14	14

-(2 / 3)

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 データセンター建設予定について、市民の声を丁寧に聞くことを求める

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

天神町1丁目データセンター建設予定について、市民の皆さんから、不安や心配する声があがっています。

データセンターは日野市や、昭島市など三多摩、そして全国でも建設が進み、環境等を巡る法規制について国レベルでの課題となっています。こうした状況を踏まえて天神町のデータセンター建設予定についてまちづくりと市民の声に応えるべきという視点で以下、質問します。

1. まちづくりの視点から

①大規模災害、火災が発生した場合の対応について、事業者側と市でどのような協議がされているのか、伺います。

② 環境面での配慮等について、排熱量の影響と、建設による地域の水循環、地下水温、地下環境への影響について伺います。

③データセンターに対し、排熱規制や周辺地域住民の生活環境を守る法整備がないことが問題であると指摘する声もあります。市として、今後条例や規制を新たに設けるような方針を定めるのか見解を伺います。

2. 市民要望に応える対応を求める

①今後の近隣住民の方たちへの説明会の予定について伺います。

②工事期間中の通学路の安全性の確保についての進捗状況を伺います。

③工事期間中の車両の一日の想定台数について伺います。

④事業者に対し、近隣住民への話し合いの場を設けたり、丁寧な説明を行い、近隣住民の声を受け止めるよう要望してほしいと考えますが、市の見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和7(2025)年 5月 23日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 三輪博美

受付番号【 16 】

27	26	25	24	23
15	15	15	14	14

-(3 / 3)

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式	
1	一括質問一括答弁方式
②	一問一答方式

質問件名
 小平市の魅力をアップし、より歩きたくなるまちにするために

質問要旨
 （初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください）

小平市ではこだいら観光まちづくり協会と連携して、小平グリーンロードやオープンガーデン等の整備や広報に力を入れるなど小平市の魅力アップにご努力いただいています。評価するところではありますが、市民からは歩いていきたくてもそんなに長くは歩けない。目的地までの途中にベンチが欲しいという声や、くつろぐためのスペースやカフェが欲しいとの声が寄せられています。

小平市の魅力をさらにアップし、より歩きたくなるまち、訪れたくなるまちになるように以下質問します。

- 1、本年4月の臨時会において、所信表明の中で市長は、まちの魅力を高めるシティプロモーションを強化し、戦略的広報を進めると述べられましたが、この目的と今後の取組についてお示ください。
- 2、小平グリーンロードやオープンガーデン等の整備、まち巡りなど、小平市の魅力アップのために特に力を入れていることをお示ください。
- 3、散歩や買い物の途中などにちょっと腰かけられるような、まちなかの道路等にベンチの設置を要望する市民の声をどのように認識していますか。
- 4、くつろぐためのスペース、カフェ等の設置について
 - (1) 市民文化会館ルネこだいらの喫茶室ルネハーモニーは閉店してから数年たちます。閉店の理由と再開の予定についてお示ください。
 - (2) 市民総合体育館にカフェ等をつくってほしいとの市民からの要望の声があります。現在の予定と今後カフェ等が設置される可能性についてお示ください。
 - (3) 小平駅南口有料自転車駐車場の更新に伴い、ベンチの設置や市民がくつろぐためのスペースが確保されるか、方向性をお示ください。
- 5、市民だけでなく市外から観光等で訪れる人にも、シェアサイクルはとても便利です。現在設置されているシェアサイクルの利用状況、利用目的についてどのように把握していますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2025年5月26日 小平市議会議長 殿
 小平市議会議員 氏名
 さとう 悦子

受付番号【 19 】

27	26	25	24	23
16	16	16	15	15

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名 安全、快適な自転車の利用と道路交通法の改正への対応について

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

小平市は平坦な地形で、自転車が利用しやすい環境です。通勤、通学、買い物等に自転車を利用する市民も多く、市民の重要な移動手段です。しかしながら自転車に関係する事故も多く、より安全な利用のための周知徹底が必要です。

2026年の道路交通法改正では、自転車の交通違反に対し、交通反則告知書いわゆる青切符制度が導入され、対象となる違反行為に対し罰金が課せられます。

さらに2026年の同法改正では、自動車の生活道路での制限速度を30km/hに引き下げるなど、私たちの暮らしに大きくかわってきます。小平市の交通安全対策がより充実するよう以下質問します。

1、小平市の人口に対する自転車の保有割合、現在の市内在住者の自転車防犯登録件数を把握していますか。把握していれば、近隣他市との比較についてもお示しください。

2、自転車が関係する交通事故の市内の直近5年間の発生件数の推移と、主な発生の状況をお示しください。

3、自転車が車道を安全に走行するためには車道を含め、走行スペースの整備が必要です。ご認識をお示しください。

4、自転車ルールブックを利用した安全教育について、取組の状況をお示しください。

5、2026年道路交通法改正について

(1) 自転車の交通ルールや安全について、対策と周知をどのように取り組みますか。自転車ルールブックの記載についてもお示しください。

(2) 自動車の生活道路での制限速度引き下げについて、対策と周知をどのように取り組みますか。ゾーン30設定に対する今後の対応についてもお示しください。

6、小平市交通安全計画の策定について、2026年度以降の予定をお示しください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2025年5月26日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【 19 】

27	26	25	24	23
16	16	16	15	15

-(2 / 2)

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 上水本町の保存樹林の開発事業計画について問う

質問要旨 今年 4 月 21 日に、昨年更地になったいろいろの里跡地に近接する上水本町 2 丁目の保存樹林に14戸の宅地造成を行うという開発事業計画のお知らせが掲示され、保存樹林なのになぜ開発されるのか、という問い合わせを何件かいただきました。小平の魅力であるみどりの主体としての保存樹林を残すための施策をお聞きます。

1. 上水本町 2 丁目の保存樹林の開発に関して、市民からの問い合わせはありましたか。あればその件数をお教えてください。
2. 5 月末には「この樹林は、保存樹林の指定の解除により、6 月上旬に樹木の伐採が行われることになりました」との掲示もされました。保存樹林の指定の解除の申出はいつありましたか。その際、市として買い取りの検討はしましたか。
3. 上水本町 2 丁目の保存樹林の開発事業計画のお知らせには、事業面積が 2152.43 m²と書かれていますが、同保存樹林全体の面積をお教えてください。同保存樹林全体および今回は開発対象とならない樹林の残り部分を買収したら、現時点でどれくらいの費用が必要ですか。
4. 今回の事業面積のうち、玉川上水風致地区に指定されている面積、また風致地区を含むことが今回の開発に与える影響をお教えてください。
5. 今回、風致地区 B 地域の部分の木竹の伐採は、20%の植栽による緑化が条件となります。今回、風致地区内で伐採される木竹の本数や面積、植栽による緑化の面積と方法をお教えてください。
6. 今回、開発される樹林は、市民ボランティアで構成される雑木林調査隊が有識者の指導を受けながら森の調査活動を行い、その調査結果を「森のカルテ」としてまとめた最初の林でした。2015 年 9 月に発行された「森のカルテ 上水本町保存樹林編」には、1975 年に保存樹林に指定されたこの林に生きる、雑木 31 種、草花 50 種、昆虫 18 種、鳥 11 種、菌類 7 種が記録されています。記録されているもののうち、草花のキンラン、ギンランは当時から絶滅危惧種で、東京都レッドデータブック(本土部)2023 によると、昆虫のハグロトンボは区部では絶滅危惧 II 類、鳥類のオナガは準絶滅危惧種、ヤマガラは区部では絶滅危惧 II 類です。開発にあたり、改めて調査し、生物多様性保持のために絶滅危惧種は保全に向けて対策を講じる必要はないのでしょうか。
7. 小平市第三次みどりの基本計画では、みどりに親しむ取組として、市民による森のカルテづくりを掲げており、昨年 12 月定例会では、新たな森のカルテの作成に向けて、実施場所や実施方法について検討したとの答弁がありましたが、その後の進捗状況をお聞かせください。
8. 令和5年度決算特別委員会参考資料集によると、令和5年度の小平市の保存樹林の数は15、面積は 33,955 m²でしたが、今回の保存樹林の喪失で、保存樹林の数と面積はどうなるのか、また保存樹林のうち玉川上水沿いにあるものの数、および保存樹林を残していくための施策をお教えてください。
9. 小平市議会の環境建設委員会が今年 3 月にまとめた政策提言「みどりの持つ多面的機能を生かしたまちづくりに向けて」では、小平市の保存樹林等を取得することも、みどりの保全には有効であるとし、北海道標茶町の例も上げて、減少するみどりの保全のため、森林環境譲与税を活用し、市内の私有林を取得し、みどりの維持等につなげていけるのではないかと記載しています。市として、この提言にどう応えますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 26 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ 受付番号【 25 】

27	26	25	24	23
17	8	7		

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 データセンター建設への市民の懸念とまちづくりの在り方について

質問要旨 天神町に建設予定のデータセンターは、エネルギー使用量が膨大で、それに伴う排熱や騒音、また火災発生のリスク等について、市民から懸念する声があります。市は、これらの市民の不安に応えられるのか、以下質問します。

- 2021年3月、フランスのデータセンター複合施設の1つで、無停電電源装置の水漏れによる異常発熱が原因と推定される火災が発生し、全焼したとされています。2018年7月には多摩市で完成間近だった建設途中のデータセンターで、バーナーによる鉄骨溶断作業中にウレタン製断熱材に引火したことが原因とみられる火事が発生し、黒煙は周辺の住宅地へも広がったと報道されています。天神町を中心とする小平市民有志が立ち上げた「環境と暮らしを考える会」は、データセンターの装置の劣化や作業ミスから発火する恐れや、装置交換の際にほこりや小さい昆虫が紛れ込んでショートを起こす危険性、また、データセンターは多くの機械が設置されているため水による消火ができないこと、を指摘しています。データセンターで、万一火事が起きた場合の対処方法について、市は何か検討されているのでしょうか。
- 昨年12月定例会で、計画されているデータセンターは、受電容量が最大53メガワットで、その消費電力は11万世帯分にもなり得ることや、CO2排出量が約82,000トンと想定すると、小平市におけるCO2排出量495,000トンと比してかなりの量になることが指摘されました。市長が今年2月27日に出した土地利用構想の届出に対する助言では、「二酸化炭素排出量の削減のため、使用電力のゼロカーボン化に努めること」が盛り込まれ、また一昨年4月の大規模土地取引行為の届出に対し市長は「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入等を検討すること」と助言した。これに対し事業者からは「太陽光発電の導入等自然エネルギーの活用を検討」するとの見解を得ました。データセンター稼働に伴う電力消費量と「再エネ指定の非化石証書」使用を含めた再生可能エネルギーの導入、CO2排出量についての事業者との検討状況をお教えてください。
- 昨年8月の小平市環境審議会では、地域エネルギービジョンを含む第三次環境基本計画の進捗状況について審議され、令和7年度末の計画中間見直しに合わせて、2030年度のCO2排出量を2013年度比で50%削減するという目標に向けて何をすべきかを鮮明にしていくことが必要と指摘されました。データセンターの稼働による膨大なエネルギー消費とCO2排出への対策について、環境審議会でも審議すべきと思われますが、その予定はありますか。
- 日野市環境基本条例では、市長は環境に影響を及ぼすおそれがある事業について、事業実施により環境に及ぼす影響と配慮の方策を示す書類の提出を要請し、事業者がそれらに関係市民等に周知して意見を聞き、その内容等を報告することを求め、また市長は環境審議会の意見を聞いて環境への配慮について事業者に要請し、その受け入れを勧告することができると定めています。小平市でも、一定規模以上の開発事業に対して、環境への影響と配慮の報告を求めて市民の意見を聞き、事業者への要請とその受け入れを勧告できるような制度が必要ではないでしょうか。市の見解は。
- データセンターからの排熱で周辺の気温が上昇し、特に真夏の猛暑日の危険性が高まるのではないかと懸念されます。立川市議会が今年3月に可決された意見書は、隣接する昭島市で計画されているデータセンターで発生する熱量は膨大で、周辺環境や農業への影響が懸念されることから、大規模データセンターの排熱等の影響が周辺地域に及ばないような法整備を求めました。同様に昨年12月に昭島市議会では、データセンターで発生する熱量は膨大でヒートアイランド現象を引き起こす恐れもあることから、排熱を含む施設全体のエネルギー管理を義務付けるための法整備等を求める意見書が可決されました。天神町の土地利用構想の届出に対する小平市長の助言も、排熱利用を考慮した設備機器の選定等、環境に与える影響への低減を求めました。天神町のデータセンターでの排熱の処理や利用についての検討状況をお教えてください。
- 江東区は、データセンター建設による騒音や排熱などの影響を懸念する住民の声を受け、江東区データセンター建設対応方針を公表し、今年4月1日から適用開始しました。この方針では、屋外に設ける設備機器(空調室外機等)の位置を明示させ、これに関する近隣配慮事項を明確にさせるとしています。天神町の土地利用構想の届出に対し市長は、「施設の特性である屋外機等からの騒音については、関係法令の規制基準を遵守したうえで、さらなる低音化に努めること、また周辺住民に対して、…建築後の環境変化について情報を共有するなど、十分な説明を行うこと」と助言しました。設置予定の屋外機の数と位置および騒音対策、建築後の環境変化についての住民への情報共有についての検討状況は。
- 日野市まちづくり条例は、市長が土地利用構想の届出に対する助言又は指導を行うに当たり、市民委員を含む市民まちづくり会議の意見を聴かなければならないと規定しています。また、流山市街づくり条例は、大規模土地開発構想に係る調停について、公募市民委員を含む流山市街づくり委員会に調停を求めることができるとし、流山市街づくり委員会は、調停部会を設置して調停案を作成し、その受諾を勧告することができると定めています。小平市でも、両市のように、土地利用構想への助言や調停など、まちづくりに市民がより多く関与する仕組みを設けてはいかでしょうか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和7年5月26日 小平市議会議員 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ 受付番号【 25 】

27	26	25	24	23
17	8	7		

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式
一問一答方式

質問件名
 地域コミュニティの醸成をどのように図るか

質問要旨

小林洋子市長は令和 7 年 3 月定例会の各会派代表質問に対し「コミュニティをつくっていったって、より魅力的な市にしていきたい」「小学校を核とした地域コミュニティの醸成を図る」という旨の答弁を多く行った。市長の描く明るく元気な街となるコミュニティに期待し、再度市長職を託した市民に具体的なビジョンを示すことが必要と考え、以下質問する。

- 代表質問の答弁には「小平第十一小学校の地区交流センターの取組を通して、市民の皆様にも共につくっていく役割というものを御理解いただきながら進めていきたい」とされていたが、具体的にどのような取組を行うのか。
- 市立小・中学校全校がコミュニティ・スクールとなった。市のホームページによると「コミュニティ・スクールの導入・推進により、特色ある学校づくり、多彩で多様な教育活動の展開、地域コミュニティの醸成などが期待される」とされているが、こどものいない市民をどのように「地域の人」として巻き込んでいくのか。
- 地域コミュニティ担当課長のもと、どのような体制で、何を目標とした業務を行っているのか。
- ヤング・ダンスフェスティバルやよさこいなど、ダンスを中心としたコミュニティが盛んなことも小平市の特徴と考えるが、①から④について質問する。
 - 地域センターや公民館を借りて活動しているダンスサークルから、移動式の鏡を貸出品に加えてほしいという要望がある。全身が映る鏡が設置されている公共施設の貸し部屋は何部屋あるか。
 - ダンスを中心としたサークル登録はいくつあるのか。
 - ヤングだけではないダンスの発表イベントを市主催で行うことができないか。
 - 2025 年はデフリンピックが東京で開かれる年でもあり、この機運を活かし、ろう者にも地域コミュニティに参加していただく機会とするため、市民まつりでの演舞にデフ阿波踊りグループを招致することはできないか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。
 令和 7 年 5 月 20 日 小平市議会議長 殿
 小平市議会議員 氏名
 川里 富美

受付番号【 6 】

27	26	25	24	23
18	18	17	16	16

再質問の方式
一問一答方式

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名
 こどもの居場所づくりに市を挙げて取り組むべき

質問要旨

令和 7 年度が始まったが、変わらず学校へ行けない子どもたちと保護者からの悲痛な声を聞く。子育てで選ばれる街となるためにも、多様なこどもの居場所を用意することが必須であると考え、以下質問する。

- 東京都の子供の居場所創設事業を活用し、小平市内でも事業者を募集すると思うが、以下の事業内容のどの分野が小平市に必要だと考えているか。
 - 居場所の提供事業、
 - 親に対する養育支援事業、
 - 子供に対する学習支援事業、
 - 食事提供等の生活支援事業、
 - ランチ運営事業、
 - 長期休暇時等食事提供事業、
 - オンラインを活用した居場所参加促進事業
- 不登校児童・生徒の居場所づくりを行いたいと保護者が活動する際、担当がわからず各所をたらい回しにされ、疲弊しているという状況を聞く。また社会福祉協議会でその受皿となっているが、市全体の事業を把握できず、各居場所との連携ができていない状態にある。市が主導し、(仮称)不登校サポート連絡協議会などを設置してはいいかがか。
- 学校と学校以外のこどもの居場所の連携はどのように行なっていくのか。
- 学校以外の居場所と学校との連携のために、出欠確認や居場所での過ごし方を入力できる専用の連絡ツールを市で用意するのはいいかがか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 7 年 5 月 20 日
 小平市議会議長
 殿
 小平市議会議員
 氏名
 川里 富美

受付番号【 6 】

27	26	25	24	23
18	18	17	16	16